

広報 かわの

令和2年6月1日 第1号

◆ 末松市長に署名嘆願書提出 体育館等の一括早期建て替え

築40年を経た河曲小学校体育館と河曲公民館の老朽化、加えてそこと離れて建つ地区市民センターの不便さ、に関し、利便性をも勘案した3施設の早期建て替えを、との強い要望が寄せられていた。

これを受けて昨年10月、地域づくり協議会は、自治会総代会を通じて飯野・神戸・河曲地区合同の行政懇談会に議題として「3施設一体型建て替え」を建議、同11月には施設を所管する教育長および地域振興部長に要望書を提出した。

そして今回、形あるものを以て市当局により強く迫るため、年明けから地区内16自治会とPTAが連携しつつ河曲全域あげて嘆願書署名運動をすすめた。その結果、最終的に右の表にあるとおり、全6887名の皆さんから署名が集まった。

3月10日午後、市役所市長応接室で萩義彦会長から末松則子市長に、厚さ12センチにおよぶ署名簿が手渡された。末松市長からは、「みなさんのお気持ちをしっかりと受け止め、これからの指針とさせていただきます。」とのコメントを頂戴した。教育委員会の中道公子教育長が立ち会いでみえた。

写真は左から是枝自治会総代会長、地域づくり協議会の田中副会長、松林会計、萩会長、末松市長、そして中道教育長。

《 自治会別署名者数 》

河田自治会	315名	野辺自治会	573名
竹野	581名	山辺	123名
木田	461名	大谷	244名
国分	544名	十宮	725名
須賀	845名	宮の前	419名
東十宮	147名	西十宮	310名
南十宮	163名	北十宮	162名
北十宮	162名	中十宮	32名
ラウムズ	71名	地区合計	5715名
河曲小学校PTA			1172名
嘆願書署名者総数			6887名

会場の市長応接室には坂佳徳地域振興部長、古市素朗次長、教育委員会の木村元彦参事が陪席されていた。名簿提出後の懇談会では、一体型方式による建て替え、という利便性と経済性に配慮した河曲の声を関係部署に改めて伝えることが出来た。



R 2.3.10

◆ 令和2年度役員体制 決まる

令和2年度地域づくり協議会の役員が、右欄の通りに決まった。任期は2年。

今回の役員人事については新型コロナ対策のため、関係者が一堂に会する形の定期総会が開催できず、原案を書面にして自治会長並びに各団体の長など関係各位に送付したうえで、その認否を書面回答していただく、という緊急策が採られた。

新機軸の一つに「地域部屋」の開設がある。今年2月、公民館の事務室を地区市民センター内に移した。そこで空いた部屋を地域づくり協議会専用の「地域部屋」に模様替えした。そして協議会に直接かわる事業案件の調整など、関係者が集まって話し合える場、として活用していくこととした。併せ

て事務局が設けられる。これまで山田地区市民センター長にお願いしていた事務作業の多くは、事務局での対応に移行する。

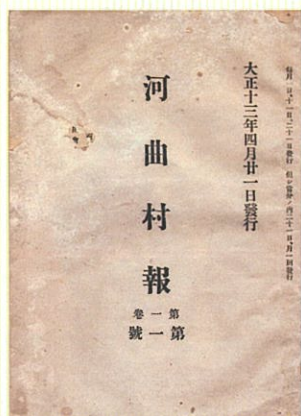
《 地域づくり協議会役員等 敬称略 》

会 長	萩 義彦
副会長	田中英敏
副会長	松林嘉熙
会 計	中川 明
監 事	棚瀬正敏
監 事	豊田 守
事務局長	松林嘉熙（併任）
事務局員	湯川伸代

『河曲村報』第一巻第一號

大正13年4月1日、三重県から「優良村」表彰を受けて金式百圓が交付された。それを機に河曲村役場が写真の村報（A5版16頁）を刊した。

目次は、口繪・役場廳舎及吏員、河曲村略圖、本村吏員表、發刊ノ辭、被表彰文、本村ノ位置及疆域、地勢、廣表、沿革、名所舊蹟、戸數及人口、土地面積、周知、村會告示など16項に及ぶ。



村は明治22年4月に「川曲村」で発足、しかし村民はその三本川の字面に馴染めず県と折衝、明治24年6月12日に「河曲村」改称が認められた。

以来34年、村民尽汗の営為に依り、森下岩松村長が今回拝受した表彰状は「協同緝睦シテ克ク公事ニ竭シ民族醇厚ニシテ産業ヲ振興シ民資充実ス村勢発展ノ状洵ニ推稱スルニ足ル」など賛辞にあふれていた。

当時の戸数人口は500戸、2723人。名所旧跡は5件で、伊勢国分寺址、山辺御水ノ碑及駒ヶ淵、山部赤人古宅蹟及御井碑、浦冠者範頼御手木逆椿、王城櫻とある。



目次第2項 河曲村略図

発刊から数えて96年、協議会は3月に「河曲地区地域計画2020～2023」を策定した。そして今、河曲3500戸10300人からなる組織は、総代会及び構成14団体の協力のもと、住民主体の自治活動の発展に向けて歩を運び始めた。

河曲は明治以来、町村合併による区画変動を一切こうむっていない。一枚岩の和の集積、これが明日の地域の宝となる。

◆ 国分の古墳群、須賀の古墳群

中日新聞鈴鹿亀山版の月例企画「鈴鹿の不思議」欄に、3月、4月と続けて国分と須賀に関わる古代史の話が載った。共通する話題は古墳であった。国分についてはさらに、飛鳥時代以降、大鹿首小熊（おおがのおびとこぐま）に代表される大鹿氏の一族が河曲全域の支配者として長く住んでいた本拠地とみられる、とも書かれていた。



近傍で古墳といえば高岡の南西端にある寺田山の前方後円墳が有名である。鈴鹿川下流域で最大という。が、そこに2月23日、国分の前方後円墳・富士山（ふじやま）1号墳が写真のとおり、昔の美しい姿で登場してきた。

孟宗竹が繁茂し、視界から失せてしまった富士の墳墓を憂い、国分の桐生悦夫自治会長が蘇生を企画、みんなに声掛けしたところ、町の心ある多くの人が立ち上がり、全長50m頂高6m程の古墳を蘇えらせた。文字どおり、国分の歴史を掘り起こした。

木田、国分、高岡とつづく丘陵地には古墳が数多く並ぶ。多くが円墳で、前方後円墳は少数派。その違いは被葬者の社会的地位がからむ。前方後円墳は、都・飛鳥の裁可なしには築き得なかったという。円墳でもその埋葬形は被葬者がそれなりに有力であった証ゆえ、富士山1号墳は近在居住集団の更なる有力者がそこに眠ったことを意味する。



須賀の阿自賀神社が鎮座する小山は、実は直径40m高さ6mの円墳である。平成16年以降、萱町周辺の遺蹟調査が進み、須賀から西に伸びる低段丘上に、幾つか円墳や方墳が在ったことが判ってきた。須賀の墳は孤立墳ではなく、須賀萱町古墳群のうち唯一今まで1500年を経てきた古墳、と見做すのが正解となった。

被葬者が誰かは分らない。しかしその頃、国分の高台からは、稻田の広がる須賀周辺に鈍く輝く古墳群が見えていた。川を挟んだこの景観は、世代を重ねた強い指導者がいたからだ。大鹿氏は敏達天皇4年（574）に史料に初登場するが、すでに雄略天皇（456～479）の頃、采女の件で中央と関わりがあっ



富士山1号墳 R2.2.26

たと喧伝される豪族である。須賀の古墳もその縁者では、と考えると疑問も解きかける。

ともあれ大鹿氏は小熊に発し、采女として都に参じた娘菟名子（うなこ）が第30代敏達天皇と結ばれ、生れた皇女糠手姫（ぬかで）が長じて押坂皇子と結ばれ、その間に生れた田村皇子がやがて第34代舒明天皇（593～641）となる、すなわち首小熊は天皇の曾祖父にあたる。それゆえ、大鹿氏は広く中央にも影響力を有したことであろう。



平安後期の保安3年（1122）現在、須賀は須可崎という名の、広さ60町歩ほどの荘園だった。地権者は御所の白河上皇に仕える兵衛督局（ひょうえのかみのつぼね）という宮廷女官で、それ以前に「往古親王御領」だった時があると『神宮建久文書』は伝える。親王とは天皇の御子息のこと。よって史料は「はるか昔、須賀は親王さんのご領地の時期があった」という経緯を語る。

近隣に近江、伊賀など稲作の進んだ郡郷があるのに伊勢国の河曲郡の須可崎が、いつ、なぜ、選ばれて天皇御皇子のご用地に充てられたのか。

これには宮中の状況を熟知し、下問に対し須可崎の土地柄知悉の人物による上奏があったから、など考えると合点がいく。首小熊とは須賀も接点があったように思える。

（記・松林嘉熙）



◆令和元年度・事業実施抄録

令和元年度に企画実施した事業は下記の通りです。皆様のご協力ありがとうございました。

H31. 4. ～	河曲駅自転車整理事業
H31. 4. 14	わいわい春まつり出店
H31. 4. 24	役員会開催
R1. 5. 25	考古博物館広場除草 神戸中学校周辺水路除草
R1. 5. 30	総会開催
R1. 7. 26, 28	考古博物館広場除草 神戸中学校周辺水路除草 河曲小学校駐車場除草
R1. 8. 3, 17	小学校親子ラジオ体操事業後援
R1. 9. 7	考古博物館広場除草 神戸中学校周辺水路除草
R1. 9. 7	役員会開催
R1. 9. 20	臨時総会
R1. 10. 20	河曲スポーツフェスタ後援
R1. 10. 29	委員会・地域計画ワークショップ
R1. 11. 9, 10	公民館サークル展示・発表会后援
R1. 11. 13	委員会・地域計画ワークショップ
R1. 11. 17	サテライト型防災訓練実施
R1. 12. 17	委員会開催
R2. 1. 25	地域計画ワークショップ
R2. 1. 30	地域計画ワークショップ
R2. 2. 15	考古博物館広場除草 神戸中学校周辺水路除草 河曲小学校駐車場除草
R2. 2. 15	役員会開催
R2. 3. 31	地域計画発行



サテライト型防災訓練本部一同 R1. 11. 17

◆令和2年度協議会・予算概要

令和2年度の協議会事業実施にあたり計画予算概要は下記の通りです。

◎収入

前年度繰越金	226,884
市一括交付金 / 基本額	1,000,000
市一括交付金 / 事務局費	900,000
市委託料 / 博物館除草	680,000
市委託料 / 河曲駅自転車整理事業	93,643
雑収入 (利息他)	513
合計	2,901,000

◎支出

運営費 (防災訓練啓発費、団体後援消耗品費、広報誌発行ほか)	590,000
各種団体へ一括交付 (公民館運営委員会、体育委員会、青少年育成町民会議)	560,000
事務局費	750,000
考古博物館除草	600,000
河曲駅自転車整理事業	84,291
事業費 (歴史公園開園記念事業)	100,000
雑費	90,000
予備費	126,709
合計	2,901,000

◆『広報かわの』創刊にあたって

会長 萩 義彦



地域づくりが本格化してきたことを踏まえて、今年から広報紙を随時発行して参ります。各自治会はじめ部会や委員会等の活動をお知らせして、元気な河曲の情報が共有できれば幸いです。お近くでこれはという話題などありましたら事務局までお寄せ下さい。

河曲地区地域づくり協議会広報紙

『広報かわの』創刊第1号 令和2年6月1日

発行責任者 地域づくり協議会事務局長 松林嘉熙
事務局 鈴鹿市立河曲公民館内 「地域部屋」